

下松に 技あり

下松からは、世界に通用する製品や技術が生み出されています。この製品づくりには、多くの中小企業の力が生かされており、その熟練した技能が「ものづくりのまち」の一翼を担う存在となっています。



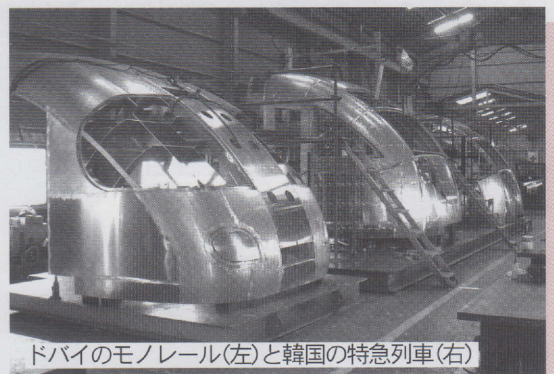
国内最高レベルの技術を持つ板金職人の国村次郎さん。
熟練したハンマー技術によって、繊細な曲線が生み出されます

新幹線の「顔」をつくる 打ち出し板金

新幹線が開業する1年前の昭和38年に山下組の名で創業した(株)山下工業所(東海岸通り)は、長年にわたり車両製造を支えてきた企業の一つです。開業用の初代0系に始まる歴代の新幹線や特急列車、モノレール、リニアモーターカーなどの「顔」ともいえるべき先頭構体や運転室、計器盤の製造に携わってきました。

山下工業所は、金属板をハンマーで何度も叩いて成形する「打ち出し板金」の技術を発展させ、曲面を持つさまざまな車両部品を製造しています。数が少ない先頭車両向けの部品は、機械よりも早くて安い「打ち出し板金」によって造り出されてきました。

第一工場長の国村次郎さんは、打ち出し板金歴46年。日々素材に向き合い磨き続けた確かな技術と経験で車両を製造してきました。



ドバイのモノレール(左)と韓国の特急列車(右)

た。現在は、製造方法や工程の検討・改善、日程調整などの管理業務をこなしながら、技術を受け継いでいく若者の育成に日々精力的に取り組んでいます。

現場では、技能者の肉体的負担の軽減と生産性向上のため、機械化が進められてきました。その結果、今日手作業が必要な領域は、どうしても人でしかできない分野に絞り込まれています。が、打ち出し板金で1人前になるには10年かかるといわれており、後継者の育成は待ったなしの状況です。

下松から新幹線が誕生していることを伝えたい

専務取締役の山下竜登さんは、2年前、会社の経営を引き継ぐため、帰郷しました。

地元で新幹線が造られていることさえ知らない若者が多いことに驚いたという山下専務。「地元の産業に車両製造があり、歴代の新幹線が造られてきたこと。その『顔』の製造に打ち出し板金が必要とされていること」をもっと多くの、特に地元の若者に知ってほしいという願いから、PR活動に積極的に取り組んでいます。



株式会社山下工業所 専務取締役 山下 竜登 さん



アルミ製のチェロ

匠の技を結集。アルミ製のチェロが光る

一般的にはほとんど知られていない打ち出し板金について、もっと知名度を上げていきたいと考え出し

たのが、車両製造と同じ素材・技術を用いた作品づくりでした。打ち出し加工や溶接など自社で持つすべての加工要素を取り入れながら、かつ話題性のあるもので職人技能を表現できればとの思いから、芸術的なアルミ製のチェロが誕生。マスコミでも取り上げられ、全国的に大きな話題を呼びました。

実在する世界最古の名器をもとにつくられたアルミ製のチェロは、演奏することもでき、会社には多くの見学者が訪れています。現在は、アルミの厚さを薄く

するなどの改良を重ね、4作目を製作中です。

1本のハンマーから生み出す技術が評価

日本の産業・文化を支えてきた「ものづくり」。製造現場で、日々ひたむきに技術や品質の向上を追求している人たちにスポットを当てた「ものづくり日本大

賞」では、長年の打ち出し加工技術が評価され、第2回特別賞を受賞。また、今年の「元気なモノ作り中小企業300社」に選出されるなど、職人の持つ技能が脚光を浴びています。



ハンマー1本で培った板金技術。プロとしての人生、思いを子どもたちに

6月11日、社長の山下清登さんは久保小の6年生を対象に、仕事にかけた思いや人生経験についての講話を行いました。同校の卒業生でもある山下社長は、若いころから日々ハンマーを振るい体得していった「打ち出し板金」の技術や日本で初めて開通した新幹線の製造を手掛けた経験から「粘り強く頑張ることが未来につながる」「遊び心を持つことも大切」と語っていました。

